

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス なのはな		
○保護者評価実施期間	令和7年12月10日		～ 令和8年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17家族	(回答者数) 15家族
○従業者評価実施期間	令和7年12月10日		～ 令和8年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・どのようなお子さんであっても、色々な経験を積むことができ、心の豊かさを得ることができるよう計画を立案し実施している。併せて、安心・安全を感じることができる支援を提供している。	・日頃から職員間で十分な話し合いを行い、多角的な視点で協議しています。	・より専門性を高めるために色々な研修への参加。
2	・本体施設に在宅系サービスがある為、日中一時や短期入所といった在宅サービスの利用が可能。また成人施設への移行、児童入所といった縦横の繋がりがしっかりしている。	・面談や相談があった際にレスパイトの一環で日中一時や短期入所利用の提案をしている。 家族の負担軽減や兄弟支援の手助けとなる助言等を行っている。	・月によっては短期入所の利用枠に余裕がなく、希望に添えないことがある為、柔軟な受入れが出来る体制作り。 ・本体施設となる入所施設との十分な連携と情報共有。
3	・受入れが難しいと言われるお子さんも積極的に受け入れている。	・日頃から事業所内での研修を行い、研鑽を高めている。 ・経験豊富な職員からのOJT研修 ・関係機関への十分な聞き取りを行い、情報の収集強化を行い、手厚い受け入れ体制の構築。	・より専門性を高めるために色々な研修への参加。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・理学療法士や作業療法士といった専門職がない。専門性という部分では、弱さを感じる。また安定した職員数の配置ができていない。	・まずは放課後等デイサービスの配置基準となる保育士や児童指導員の確保、定着に注力していた。 ・専門職の求人を出してこなかった。	・法人、事業所にその必要性について説明を行っていく。 ・引き続き、求人募集を行っていく。
2	・他の事業所や地域の児童クラブ等との交流が少ない。	・日々の利用者の受入れで精一杯だった。 ・開所以降、交流を持つ機会が難しいと考えていたことやその必要性を見いだせなかった。	・交流を持つべく、近隣の地域の児童クラブへ積極的なアプローチを行っていく。 ・まずは職員からだけでも参加できるように前向きに協議していく。 ・令和7年度に関しては法人内の他事業所との交流を実施した。
3	・活動する場所に個室が無い。 ・クッキング活動などを行う際にキッチン等の設備がない。	・設計の段階で個室を設置することが検討されていなかったと考えられる。	・現在の空間に個室が設置できるのか、増設が可能なか等を協議検討。 ・現在、ある構造の中で部分的な改修ができないかを積極的に検討していく。 ・予算の確保。